

令和元年度 学校・家庭・地域連携サポート事業

県北地区地域連携担当教職員等研修会

主催：福島県教育委員会

目的：地域と学校の連携・協働についての意義や推進の方策等について講義や講演
情報交換をとおして地域連携担当教職員等の資質向上を図る。

日時：令和元年7月9日（火）13：20～16：30

場所：桑折町屋内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ！」

講義 「地域と学校の連携・協働」

福島県教育庁社会教育課 社会教育主事 戸井田 修

国の動向を受け、福島県で策定した「頑張る学校応援プラン」「福島県地域学校活性化推進構想」をもとに、地域と学校の連携・協働のあり方についての説明がありました。

- 地域と学校との連携・協働が求められる背景
- 地域と学校が連携・協働することでの効果
- 地域連携担当教職員の職務内容
- 地域連携担当教育員任命の効果
- 地域連携・協働活動の計画作成の例
- 地域と学校が協働する実践事例 等



講話 「地域と共にある学校づくりを目指して」～地域学校協働活動の推進～

尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏

地域学校協働活動を推進していくために、地域連携担当教職員として大切にしてほしい視点（考え方）について、具体的な事例を交えた話がありました。

- 地域連携担当教職員の役割は、子どもたちにいい大人のロールモデル（生きる姿）を出会わせること。
- 「協働」とは、異なる立場の人たちと協力して、相乗効果をつくり出すこと。
- 学校、地域、家庭が協働する目的を理解し、「三方よし」の関係作りをプロデュースする。



- 協働を生み出す4つのステップ
 - ①垣根を低くし、一方通行ではなく、相互対等な状況をつくる。
 - ②相手の立場を理解し、共感する言葉掛けをする。
 - ③相手とこちらの状況を出し合い、活かし合えるアイデアを考える。
 - ④役割分担をして、チームとして一つの活動を試みる。
- これまでの慣例にとらわれず、子どもも大人も新たな社会をつくる気持ちでわくわくする活動を試みる。

講演の中で、小グループに分かれて話し合う時間が設けられ、協働活動を推進する上でのキーワードが参加者から出されました。

(参加者から出されたキーワード)

- 「できることを無理なく」
- 「調和のとれた連携」
- 「学校の多忙化解消」
- 「地域との到達目標の共有」
- 「連絡調整のための時間確保」
- 「行政との連携」等



グループ協議 「地域連携担当教職員等の役割について」 (教職員) 「地域と学校の連携・協働に向けた行政の役割について」 (行政)

域内の小・中・特別支援学校や県立学校の教職員、教育行政の担当者がそれぞれの立場から、学校と地域を推進する上での悩みや課題、解決方法について意見を交換しました。

【出された課題】

- 担当の教員が代わっても、地域と継続的に関わっていける体制作りが必要。
- 地域の方との打ち合わせ時間の確保が課題。
→連携することの良さは理解しているが、学習内容をしっかり理解していただくには綿密な打ち合わせが必要。そうなれば時数等のしわ寄せが大きくなる。
- 「学校を支援するための地域づくり」と「地域貢献のための学校の在り方」が課題。
- (地域連携担当教職員として) 各学年の活動を統括するのが難しい。
- 「日程ありき」で事業が行われている印象がある。子どもたちの学びとつながっているのか? 等

地域社会と学校が一体となって子どもを育てるとともに、学校も地域に貢献する体制作りを進める上で、何が課題となっているかを本音で話し合うことができました。

最後に、講師の松田氏から、それぞれの課題の解決に向けたヒントになるアドバイスがありました。

